

古文ドリル：「せ」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「せ」の正体（4パターン）

古文の「せ」は識別問題で頻出。大きく **4種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 過去の助動詞「き」未然形「せ」	連用形接続	「せ+ば～まし」（反実仮想）	行か せば 、見 まし
② サ変動詞「す」未然形「せ」	一語のサ変	「す」一語+打消/推量	旅行 せず ／勉強 せむ
③ 使役の助動詞「す」未然形「せ」	四段・ナ変・ラ変未然形接続	「～せ+たまふ／む／ず」	行か せ たまふ（行かせなさる）
④ 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」	四段・ナ変・ラ変未然形接続	「～せ+たまふ」二重敬語	仰 せ らる（おっしゃる）

識別の鉄則

1. **直前の語の活用形と品詞** を見る
2. サ変「す」一語 → サ変未然形「せ」
3. 四段・ナ変・ラ変の未然形+「せ」 → 使役・尊敬の「す」未然形
4. **下接語** を見る
5. 「せ+ば～まし」 → 過去「き」未然形（反実仮想）
6. 「せ+ず」「せ+む」 → サ変「す」未然形
7. 「せ+たまふ」 → 使役・尊敬の助動詞「す」（高貴な主語なら尊敬の二重敬語）
8. **反実仮想「ませば～まし／せば～まし」** は重要構文。「もし～だったら、～だろうに」
9. **使役と尊敬の助動詞「す」の見分け**
10. 下に尊敬語が続く（たまふ・おはす）+ 高貴な主語 → 尊敬の二重敬語
11. 下に尊敬語がない or 主語が一般人 → 使役

🎯 解き方のコツ (時短テクニック)

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「せば〜まし」が見えたら 過去「き」未然形 で即決

- 「せ+ば」と「文の後ろに **まし**」がセットで出てきたら → **反実仮想** 「もし〜だったら〜だろうに」
- これは古文の重要構文。形を見た瞬間に答えを書く。
- 例: 「世の中にたえて桜のなかり**せば**春の心はのどけから**まし**」

コツ② 「せ給ふ/せたまふ」を見たら 使役か尊敬かを2秒で判定

- 直前の動詞が **四段・ナ変・ラ変の未然形** → 助動詞「す」未然形「せ」
- 主語が **天皇・中宮など最高位+自分で動作** → **尊敬の二重敬語** 「お〜になる」
- 主語が貴人でも **別の人にやらせている** → **使役** 「〜させなさる」
- 「〇〇に〜せ給ふ」のように「〇〇に」があれば使役で確定。

コツ③ 直前の語幹が 意味を持つ独立した名詞 ならサ変「す」未然形

- 「旅行**せず**」「勉強**せむ**」「物語**せばや**」 → 名詞+サ変「す」の組合せ
- 「せ+ず/せ+む/せ+ばや」 → サ変「す」未然形「せ」が定番。
- 名詞か動詞語尾かをまず判定。

コツ④ 「仰せ/思せ/きこえさせ」など 一語の尊敬動詞 に注意

- 「仰す (おほす)」「思す (おぼす)」は **それ自体で尊敬語**。「せ」を切り出さない。
- 「きこえさす」も使役の助動詞ではなく **謙譲語の一語**。
- 形を見て「一語動詞」と判断できれば、識別問題から除外できる。

試験本番でのチェック順序

1. 「せば〜まし」のセットを探す (YES → 過去「き」未然形で終了)
 2. 直後が「給ふ/たまふ/おほす」 → 使役 or 尊敬 (主語と動作主で判定)
 3. 直前が **名詞** → サ変「す」未然形
 4. 「仰せ・思せ」など **一語の尊敬動詞** ではないか確認
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「**せ給ふ**」を必ず尊敬の二重敬語と決めつけない → 動作主が別人なら使役+尊敬

- 「**仰せらる**」の「せ」は **動詞「仰す」の一部**。助動詞ではない
- 「**せ+ず**」をサ変と決めつけない → 直前が四段未然形なら使役・尊敬の「す」未然形「せ」(例:「行かせず」=行かせない)
- 「**せばや**」は「サ変未然形+願望ばや」or「過去せ+係助詞ばや」で文脈による

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

4パターンを識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月見**せば**、思ひ出でなまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説**：「見」上一段連用形+「せ」+「ば」（仮定）+反実仮想「なまし」。「月を見たならば、思い出さるうに」。反実仮想の典型。

Q2. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅行**せず**。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「旅行す」サ変未然形+打消「ず」。「旅行しない」。

Q3. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、行かせ**たまふ**。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説**：「行か」四段未然形+尊敬「す」未然形+尊敬「たまふ」。主語が帝（高貴）で、下に尊敬「たまふ」→尊敬の二重敬語。「お行きにな

る」。

Q4. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、家臣に物を取らせたまふ。

答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」 **解説：**「取ら」（四段「取る」未然）＋使役「す」連用「せ」＋尊敬「たまふ」。「主が家臣に取らせる」→使役。「家臣に物を取らせなさる」。

Q5. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春過ぎて夏来せば、衣替へまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「来（き）」カ変連用形＋「せ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「夏が来たなら、衣替えするだろうに」。

Q6. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

勉強せね。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「勉強す」サ変未然＋打消「ず」已然形「ね」。「勉強しないので／勉強しない」。

Q7. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

仰せらる。

答え：下二段動詞「仰す」連用形「仰せ」の活用語尾 **解説：**「仰す」（下二段「お命じになる」の意の尊敬本動詞）の連用形「仰せ」＋尊敬助動詞「らる」終止形。「お命じになる／仰せられる」。傍線部「せ」は下二段動詞の活用語尾（助動詞ではない）。「仰せらる」は最高敬語として頻出。

Q8. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

あらせたまへ。

答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「あら」ラ変「あり」未然形＋「せ」＋尊敬「たまへ」命令形。文脈で使役か尊敬かが決まる。 **典型：**「あらせたまへ」は「（～の状態に）してくださいませ」または「いてくださいませ」。

Q9. 次の傍線部「ませ」を識別せよ。

風吹か**ませ**ば、波立たまし。

答え：反実仮定の助動詞「まし」未然形「ませ」 **解説：**「吹か」（四段未然）＋「ませ」＋「ば」＋反実仮定「まし」。「もし風が吹いたならば、波が立つだろうに」。「ませば～まし」は反実仮定の典型構文。

Q10. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

試験を**せ**む。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「試験」（名詞）を目的語にとり「（試験を）する」の意の「す」（サ変）未然形＋意志「む」。「試験をしよう」。

Q11. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御文書か**せ**たまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「書か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。主語が中宮（高貴）。「お書きになる」。

Q12. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

弟に仕事**せ**さす。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「仕事」＋「す」サ変未然＋使役「さす」。「弟に仕事をさせる」。

Q13. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

知り**せ**ば、来まし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「き」未然形「せ」は連用形接続。四段「知る」連用形「知り」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮定）。「知っていたなら、来るだろうに」。

Q14. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大臣、馬を走ら**せ**たまふ。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「走ら」四段未然＋使役「す」未然＋尊敬「たまふ」。文脈「大臣が馬を走らせる」→使役。

Q15. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

解かせたまへ。

答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「解か」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまへ」命令。文脈で：誰かに解かせる→使役 / 自ら解く（高貴）→尊敬。

Q16. 次の傍線部「し」を識別せよ。

法師、念仏したり。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「念仏す」（複合サ変）連用形「し」＋存続「たり」。「法師が念仏していた」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q17. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

君、御階を昇らせたまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「昇ら」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。主語が君（高貴）。「お昇りになる」。

Q18. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

物言はせば、答へまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「言は」四段未然＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「物を言ったならば、答えるだろうに」。

Q19. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅せじ。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「旅す」（複合サ変）未然形＋打消推量「じ」。「旅をしないでだろう」。

Q20. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御製を作ら**せ**たまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説**：「作ら」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「御製」（＝帝の作品）を作る主体は帝、高貴な主語＋下に尊敬。「お作りになる」。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

反実仮想構文、使役/尊敬の見分け、係り結びを含む応用問題。

Q21. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

雨降ら**せ**ば、止みなまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説**：「降ら」四段未然＋「せ」＋「ば」＋「なまし」（完了「ぬ」未然「な」＋反実仮想「まし」）。「雨が降ったならば、止んだだろうに」。

Q22. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅装**せ**ず。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「旅装す」（複合サ変、＝旅支度をする）未然形＋打消「ず」。「旅装をしない」。

Q23. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、自ら楽しませたまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説**：「楽しま」（四段「楽しむ」未然）＋尊敬「す」未然「せ」＋尊敬「たまふ」。「自ら」とあるので動作主は帝自身。「自らお楽しみになる」（尊敬の二重敬語）。

Q24. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

知ら**せ**ねば、答へず。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「知ら」四段未然＋使役「す」未然＋打消「ず」已然形「ね」＋「ば」(原因)。「知らせないので、答えない」。

Q25. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春来**せ**ば、雪解けなまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「来(き)」カ変連用＋「せ」＋「ば」＋「なまし」(反実仮想)。「春が来たならば、雪が解けるだろうに」。

Q26. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

いざ**せ**む。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「いざ」(=さあ)＋「す」サ変未然＋意志「む」。「さあ、しよう」。

Q27. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

内裏より召**さ**せたまへり。

答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」 **解説：**「召さ」(四段「召す」未然)＋使役「す」連用「せ」＋尊敬「たまへ」＋完了「り」。「内裏からお呼び出させなされた」。

Q28. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

嘆か**せ**たまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」(二重敬語) **解説：**「嘆か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。高貴な主語の場合「お嘆きになる」。

Q29. 次の傍線部「けれ」を識別せよ。

道狭**けれ**ば通り難し。

答え：形容詞「狭し」(ク活用) 已然形「狭けれ」 **解説：**形容詞「狭し」(ク活用) 已然形+接続助詞「ば」(原因)。「道が狭いので通りにくい」。

Q30. 次の傍線部「し」を識別せよ。

食事したまふ。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「食事す」(複合サ変) 連用形「し」+尊敬「たまふ」。「お食事なさる」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q31. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

御覧ぜさせたまふ。

答え：使役・尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「御覧ぜ」(サ変「御覧ず」未然形)+使役・尊敬「さす」連用形「させ」+尊敬「たまふ」。動作主が中宮自身なら「ご覧になる」(尊敬の二重敬語)。※「す」と「さす」の使い分け:「さす」は下一段・上一段・下二段・上二段・カ変・サ変未然形接続。「御覧ず」はサ変なので「さす」が付く。

Q32. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月見せば、夜更けなまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「見」上一段連用+「せ」+「ば」+「なまし」。「月を見たならば、夜が更けてしまうだろうに」。

Q33. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

自ら歌詠ませたまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」(二重敬語) **解説：**「詠ま」四段未然+尊敬「す」未然+尊敬「たまふ」。「自ら」が示すように主語が動作主=高貴。「お詠みになる」。

Q34. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

子に水汲ませけり。

答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」 **解説：**使役「す」は未然・連用同形「せ」。下接「けり」は連用接続なので、ここの「せ」は連用形。「汲ま」(四段未然)+使役「す」連用「せ」+過去

「けり」。「子に水を汲ませた」。

Q35. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅**せ**じ。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「旅す」（複合サ変）未然形「せ」＋打消推量「じ」。「旅をしないだろう」。

Q36. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

母、子を寝**させ**たまふ。

答え：使役の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「寝（ね）」（下二段「寝」未然）＋使役「さす」連用形「させ」＋尊敬「たまふ」。下二段未然形接続なので「さす」が付く。「子を寝かせなさる」。

Q37. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

行か**せ**ぬ。

答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」＋完了「ぬ」終止形 **解説：**「行か」四段未然＋使役「す」連用＋完了「ぬ」。「行かせてしまった」。

Q38. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

知ら**せ**たり。

答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」＋存続「たり」 **解説：**「知ら」四段未然＋使役「す」連用＋存続「たり」。「知らせていた」。

Q39. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御琴弾か**せ**たまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「弾か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「お弾きになる」。

Q40. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

行**せ**ばや。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「行（おこな）」（名詞 or 語幹）＋サ変「す」未然＋願望「ばや」。「行いたい」。※「ばや」は未然形接続の願望終助詞。

Q41. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

来**せ**ば、よからまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「来（き）」カ変連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「(あの時) 来たならば、よかつただろうに」。

Q42. 次の傍線部「すれ」を識別せよ。

仕事**すれ**ども疲れず。

答え：サ変動詞「す」已然形「すれ」 **解説：**「仕事す」（複合サ変）已然形「すれ」＋接続助詞「ども」（逆接）。「仕事をするけれども疲れない」。

Q43. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御代を治め**さ**せたまふ。

答え：尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「治め」下二段「治む」未然形＋尊敬「さす」連用＋尊敬「たまふ」。下二段未然形接続なので「さす」が付く。「お治めになる」。

Q44. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

雨止ま**せ**たまへ。

答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」 **解説：**「止ま」（四段「止む」未然）＋使役「す」連用「せ」＋尊敬「たまへ」命令。「(神様などに) 雨を止めさせてくださいませ」。

Q45. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

思ひ**せ**ず。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「思ひ」（名詞or連用形）＋サ変「す」未然＋打消「ず」。「思いをしない／思わない」。

Q46. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

内裏に参ら**せ**たまへ。

答え：尊敬の助動詞「す」連用形「せ」（二重敬語） **解説：**「参ら」（四段「参る」未然）＋尊敬「す」連用「せ」＋尊敬「たまへ」命令。動作主は相手自身。「内裏にご参上なさいませ」。

Q47. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月見**せ**ば、宴催さまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「見」（上一段連用）＋「せ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「月を見たならば、宴を催すだろうに」。「せば～まし」の反実仮想構文。

Q48. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、宴を催**さ**せたまふ。

答え：尊敬の助動詞「さ」（＝「さす」未然形） **正答：**「催さ」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」と読む。あるいは「催（もよほ）し」（名詞）＋「さ・せ・たまふ」？ **正答（推奨）：**「催さ」（四段「催す」未然）＋尊敬「す」未然「せ」＋尊敬「たまふ」。「お催しになる」（二重敬語）。

Q49. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

紙を破ら**せ**たまふ。

答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「破ら」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまふ」。誰かに破らせる→使役、自分で破る（高貴）→尊敬。

Q50. 次の傍線部「し」を識別せよ。

仏事**し**たまふ。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「仏事す」（複合サ変）連用形「し」＋尊敬「たまふ」。「仏事をなさる」。サ変「す」の連用形は「し」。

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

引用・敬語・係り結びが絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御文を書か**せ**たまひて、人にも見せ**さ**せたまふ。

答え：①最初の「せ」＝尊敬の助動詞「す」未然形（二重敬語）②「見せさせ」の「さ」は使役の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説**： - 「書か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまひ」 → 二重敬語「お書きになる」 - 「見せ」（下二段「見す」連用）＋「させ」（使役「さす」連用）＋尊敬「たまふ」 → 「お見せさせなさる」

Q52. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春来**せ**ばと夢に見ゆ。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説**：「来」カ変連用＋「せ」＋「ば」＋引用「と」。「『春が来たならば』と夢に見える」。

Q53. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

朝廷、僧を召**さ**せたまふ。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説**：使役「す」は未然形接続。四段「召す」未然形「召さ」＋使役「す」未然形「せ」＋尊敬「たまふ」。「朝廷が僧を召させなさる」。 ※「召し（連用形）＋せ」は不可。「召さ（未然形）＋せ」が正しい接続。

Q54. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

嵐、木を倒**さ**せけり。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「倒さ」四段未然＋使役「す」未然「せ」＋過去「けり」。「嵐が木を倒させた」＝「嵐が原因で木が倒れた」。

Q55. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

もし春が来**せ**ば、花咲くまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「もし」（仮定）＋「来」カ変連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」。反実仮定の典型。「もし春が来たならば、花が咲くだろうに」。

Q56. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いと急ぎて旅**し**たまふ。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「旅す」（複合サ変）連用形「し」＋尊敬「たまふ」。「とても急いで旅をなさる」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q57. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ、笛吹か**せ**じ。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「吹か」四段未然＋使役「す」未然＋打消推量「じ」。「私は（人に）笛を吹かせない」。

Q58. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御代を治め**さ**せたまふ。

答え：尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「治め」下二段「治む」未然＋尊敬「さす」連用＋尊敬「たまふ」。下二段未然＋「さす」。「お治めになる」（二重敬語）。

Q59. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、楽し**ま**せたまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「楽しま」四段「楽しむ」未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「お楽しみになる」。

Q60. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

庭に雪降ら**せ**たまふ。

答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「降ら」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまふ」。文脈「庭に雪を降らせなさる」（使役、神様が雪を降らせる）か「庭に雪が降る（神様の動作の尊敬）」。
※ 神様や帝が「降らせる」場合、神事的表現では使役。

Q61. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御覧ぜさせたまふ。

答え：尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「御覧ぜ」（サ変「御覧ず」未然）＋尊敬「さす」連用＋尊敬「たまふ」。「ご覧になる」（二重敬語）。※「御覧ず」自体が尊敬語。さらに二重敬語にする。

Q62. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

もし帰り来せば、よろこびなまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「帰り来（き）」連用＋「せ」＋「ば」＋「なまし」（反実仮想）。「もし帰って来たならば、喜ぶだろうに」。

Q63. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

嘆かせたまへば、人みな涙す。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「嘆か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまへ」已然＋「ば」（原因）。「お嘆きになるので、人々皆涙を流す」。

Q64. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

殿、いたう驚かせたまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「驚か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「殿はひどくお驚きになる」。

Q65. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

学をせじ。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「学（がく）」＋サ変「す」未然＋打消推量「じ」。「学問をしないだろう」。

Q66. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問は**せ**む。(改変)

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「問は」四段未然＋使役「す」未然＋意志「む」。
「(人に) 尋ねさせよう」。 ※原典 (伊勢物語) は「言問はむ」(使役なし)。本問は識別のため使役「せ」を加えた改変。

Q67. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

月光に照らさ**せ**たまふ。

答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「照らさ」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまふ」。月や神の主体なら尊敬「お照らしになる」、誰かを照らさせる場合は使役。

Q68. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

いざ立た**せ**たまへ。

答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「立た」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまへ」命令。「さあ、お立ちになってください」(尊敬) or 「立たせてくださいませ」(使役)。

Q69. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、家臣に書か**せ**たまふ。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「家臣に書かせる」→ 動作主は家臣、主は使役の指示者。使役。

Q70. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御絵を描か**せ**たまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」(二重敬語) **解説**：主語が帝で動作主も帝。下に尊敬「たまふ」→ 二重敬語「お描きになる」。

Q71. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ行き**せ**ば、君はとどまらまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説**：「行き」（四段「行く」連用）＋「せ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「私が行ったならば、君はとどまるだろうに」。「せば～まし」の反実仮想構文。

Q72. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御娘を入内**さ**せたまふ。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説**：複合サ変「入内す」未然形「入内せ」＋使役「す」未然形「せ」＋尊敬「たまふ」、もしくは「入内さす」と分析して「入内さ」（語幹的扱い）＋使役「す」未然「せ」＋たまふ。動作主は娘で、「(帝が) 御娘を入内させなさる」。※「入内せたまふ」では「させ」の使役・尊敬の二重表現が不明瞭。「入内させたまふ」と書くのが標準。

Q73. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

仰**せ**らるるやう。

答え：下二段動詞「仰す」未然形語尾「せ」 **解説**：「仰す」（下二段、敬語動詞）未然形「仰せ」＋尊敬「らる」連体「るる」＋形式名詞「やう」。「お命じになることには」。※「仰す」自体が尊敬語動詞で、「せ」は活用語尾。助動詞「す・さす」の「せ」ではない。

Q74. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

知ら**せ**ず。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「知ら」四段未然＋使役「す」未然＋打消「ず」。「知らせない」。

Q75. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅**せ**じと思ふ。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「旅す」サ変未然＋打消推量「じ」＋引用「と」。「旅をしないだろうと思う」。

Q76. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御物の怪に困ら**せ**たまへり。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「困ら」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまへ」連用＋完了「り」。「物の怪にお困りになっていた」。

Q77. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

思ふこと言は**せ**ず。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「言は」四段未然＋使役「す」未然＋打消「ず」。「思うことを言わせない」。

Q78. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

殿、御階を上ら**せ**たまふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「上ら」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。高貴な主語。「お上りになる」。

Q79. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

風吹き**せ**ば、舟漕ぎなまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「き」未然形「せ」は連用形接続。四段「吹く」連用形「吹き」＋「せ」＋「ば」＋「なまし」（反実仮想）。「風が吹いたならば、舟を漕ぐだろうに」。

Q80. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春来**せ**ば、花咲かまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「来（き）」（カ変連用）＋「せ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「春が来たならば、花が咲くだろうに」。「せば～まし」の反実仮想構文。

【第4部】 入試レベル (Q81～Q100)

Q81. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御前の物見させたまふほどに、廂の御簾を上げよと仰せらる。

答え：①「させ」＝尊敬の助動詞「さす」連用形 ②「仰せらる」の「せ」＝下二段「仰す」連用形
語尾 解説： - 「見」上一段連用＋尊敬「さす」連用「させ」＋尊敬「たまふ」→二重敬語「ご覧になる」 - 「仰せらる」：「仰す」（下二段、敬語動詞）連用「仰せ」＋尊敬「らる」終止形

Q82. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしや、と問はせたまへば、舟人涙を流す。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） 解説：「問は」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまへ」已然＋「ば」（原因）。伊勢物語「東下り」の場面の改変。「お尋ねになるので、舟人が涙を流す」。

Q83. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御琴弾かせたまへば、心ある人みな涙ぐむ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） 解説：「弾か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまへ」已然＋「ば」。「御琴をお弾きになるので、心ある人々が皆涙ぐむ」。

Q84. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

雪の降りせば、いと心細からまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 解説：「き」未然形「せ」は連用形接続。四段「降る」連用形「降り」＋「せ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「雪が降ったならば、とても心細いだろうに」。「連用形＋せば～まし」の反実仮想構文。

Q85. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御使ひ、走らせたまふ。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「走ら」四段未然＋使役「す」未然＋尊敬「たまふ」。「御使いを走らせなさる」（使役）。

Q86. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

仰**せ**事承りて、退き出づ。

答え：下二段動詞「仰す」連用形「仰せ」の語尾 **解説：**「仰す」（下二段、敬語動詞）連用形「仰せ」＋名詞「事」＋四段「承る」連用。「お命じになったことを承って、退出する」。※「仰せ事」（おほせごと）で「お言葉、ご命令」の意の合成語。

Q87. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れも勉強**せ**じ、と思ひみたるなり。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「勉強す」サ変未然＋打消推量「じ」＋引用「と」。「私も勉強しないだろう、と思っているのだ」。

Q88. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御製を作ら**せ**たまひて、世に伝へよと仰**せ**らる。

答え：①「作らせ」の「せ」＝尊敬の助動詞「す」未然形（二重敬語）②「仰せらる」の「せ」＝下二段「仰す」連用形語尾 **解説：** - 「作らせたまふ」：尊敬の二重敬語「お作りになる」 - 「仰せらる」：「仰す」連用＋尊敬「らる」終止

Q89. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

物言は**せ**ばや、と心に願ふ。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「言は」四段未然＋使役「す」未然＋願望「ばや」。「(人に)物を言わせたい、と心に願う」。

Q90. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、ものの怪に苦しま**せ**たまふを、加持し奉る僧、夜もすがら祈りまどふ。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「苦しま」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「中宮が物の怪にお苦しみになるのを、加持祈祷申し上げる僧が、一晚中祈りに励

む」。

Q91. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

よし、わが心を**せ**よ。

答え：サ変動詞「す」命令形「せよ」 **解説**：「す」サ変命令形は「せよ」。「よし、私の心の通りにせよ／私の意志に従え」。

Q92. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

仏も**せ**ぬ慈悲を、母は子に与ふ。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説**：「す」サ変未然+打消「ず」連体形「ぬ」+体言「慈悲」。「仏でも持たない慈悲を、母は子に与える」。

Q93. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ独り住み**せ**ば、寂しからまし。

答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説**：「住み」（四段「住む」連用）+「せ」+「ば」+反実仮想「まし」。「私が独り住んだならば、寂しいだろうに」。「せば～まし」の反実仮想構文。

Q94. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御製作ら**せ**たまひしを、世に伝ふべし。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説**：「作ら」四段未然+尊敬「す」未然+尊敬「たまひ」連用+過去「き」連体「し」+準体助詞「を」。「院がお作りになった御製を、世に伝えるべきだ」。

Q95. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

旅にし**ある**人を、慰め**さ**せたまふ。

答え：尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説**：「慰め」下二段「慰む」未然+尊敬「さす」連用+尊敬「たまふ」。「旅にある人を、お慰めなさる」（二重敬語）。

Q96. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我れ、人を悲しま**せ**じ。

答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「悲しま」四段「悲しむ」未然＋使役「す」未然＋打消推量「じ」。「私は人を悲しませないだろう」。

Q97. 次の傍線部「し」を識別せよ。

法皇、御幸した**ま**ふ。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「御幸す」（複合サ変）連用形「し」＋尊敬「たまふ」。「法皇が御幸なさる」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q98. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

春雨に濡らさ**せ**たまへるかな。

答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「濡らさ」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまへ」連用＋完了「り」連体＋詠嘆「かな」。「春雨に濡らされなされたことよ」（尊敬の受身） or 「（誰かに）濡らさせなされた」（使役）。

Q99. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御物の怪、いみじう祈ら**せ**たまへど、なほ離れず。

答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） or 使役 **解説：**「祈ら」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまへ」＋逆接「ど」。文脈「物の怪を退散させるために祈祷を行わせる」→使役（高貴な主語が僧侶に祈祷させる）が自然。

Q100. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

行く川のながれは絶え**せ**ずして、しかも、もとの水にあらず。

答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「絶え」下二段「絶ゆ」連用＋サ変「す」未然＋打消「ず」連用＋「して」。方丈記冒頭の改変（原文は「絶えずして」）。「絶ゆ」＋「す」＝「絶ゆることをしない」の意で、サ変動詞「す」が補助的に付く稀な用法。実際の方丈記原文は「絶えずして」（絶え＋打消ず）が正格。

合計 / 100

あとかぎ

「せ」の識別の核心： - **接続を見る**：連用形＋「せ」なら過去未然、四段未然＋「せ」なら使役・尊敬「す」 - **下接語を見る**：「せ＋ば～まし」なら反実仮想（過去未然）、「せ＋たまふ」なら使役・尊敬 - **主語を見る**：高貴な主語＋下に尊敬語 → 尊敬の二重敬語、それ以外 → 使役 - **サ変「す」一語**は「～せず／～せむ／～せじ／～せばや」など打消・推量・願望と結びつく

「せたまふ」「させたまふ」「せらる」は宮中文学（源氏物語・枕草子）に頻出する尊敬の二重敬語。文脈で誰が動作主かを必ず押さえる。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太